多世代の交流を促す高齢者住宅

外部を取り込み人を呼ぶ。 建築を通じてつながりは生まれる。

都市デザイン研究室　CY15042　渡邊

Background

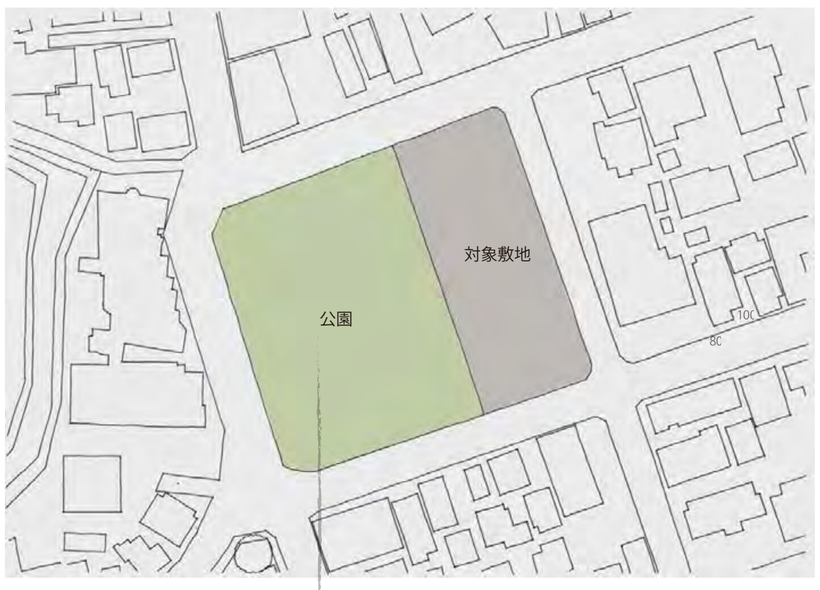
わが国では戦後経済成長とともに平均寿命が延び、 世界的に例を見ない速さで高齢化が進んでいる。 一般
齢者を取り巻く問題としては、 いわゆる 「高齢者の３Ｋ （健康・介護の問題、 経済的問題、 社会的な孤
３つの文字の頭文字からとっている）」 が言われている。 中でも高齢者の社会的孤立は、 政策的にも取
ばならない重要な課題となっている。 本研究では高齢者の暮らしに着目し、 高齢者の３Ｋのうち、 高齢者
孤立についての解決策を考えたい。 高齢化が進む代表地区を選定し、 その地区の特色を活かしつつ、 高齢
らしやすいまちづくりにつなげたい。

社会的な孤立の問題を考える上で、 建築としての解決策として介護施設に着目した。 居住型のサービス
者向け住宅では、 施設内のサービス内容により幅広い利用者を対象とすることができる。 その点を上手く利
部との交流」 を図ることによって社会的な孤立の問題解決に取り組む。

Site

まず、 高齢者の安全な移動手段としてバスに着目。 バス路線沿いに直接アクセスできる敷地を選定する
下の図の白いラインがバス路線である。 敷地は出身地である神奈川県横浜市磯子区から選定。 磯子区では
率２６．８％と市の平均を上回る数値で高齢化が進展している。 敷地は公園に隣接。 近隣に小学校があり
ても子供たちが多く集まる場所となっている。 夏祭りなども行われており、 関係性を持たせるには最適だ
卒中医療センターが徒歩５分圏内の距離にあり、 通院には最適である。

神奈川県横浜市磯子区丸山町周辺　航空写真　Scale　1/25



敷地図　Scale　1/80

Concep

「交流」

子供たちをターゲットとした交流を促す。 高齢者
の先輩ととらえることができる。 高齢者は子供たち
な分野に関しての教育ができる。 子供たちは高齢者
供ならではの元気を与えることができる。 子供との
通じて親や友達へと関係性を広げ、 多世代による交
とつなげる。

「外部空間との一体化」

外部空間と建築の一体化を図ることによって外部の
の住宅施設への侵入に対する抵抗をなくす。 これに
お互いの心理的距離感を縮めることができるため交流
きやすくなる。

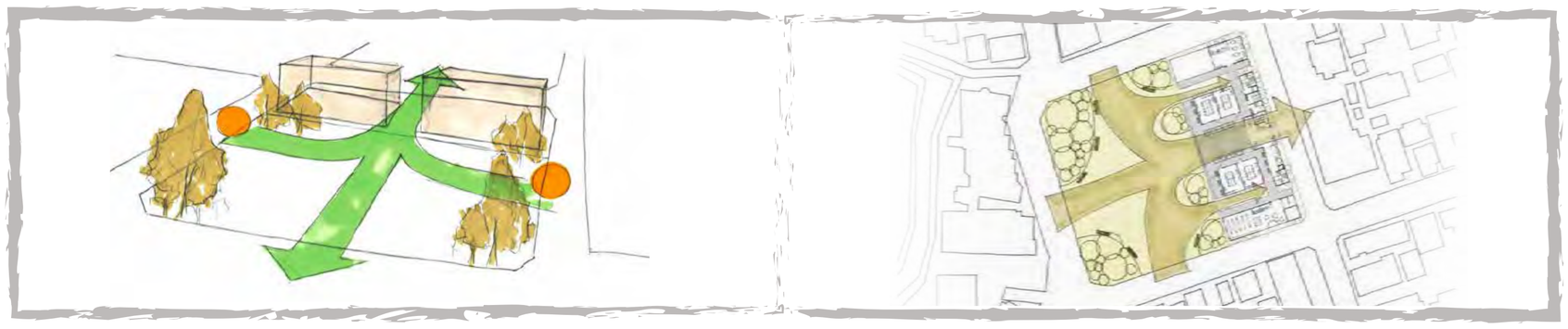
Diagram

・動線計画

公園を含めた一区画で動線計画を考える。 バス通りからは東西方面の二か所にあるバス停と、 北方面の
敷地の中央に向かって動線を伸ばし、 動線を境に建築を二つに分ける。 ボリュームの東西方面にメインと
口を設ける。 バス道理から公園を通る動線は植栽を配置して導く。

・配置計画

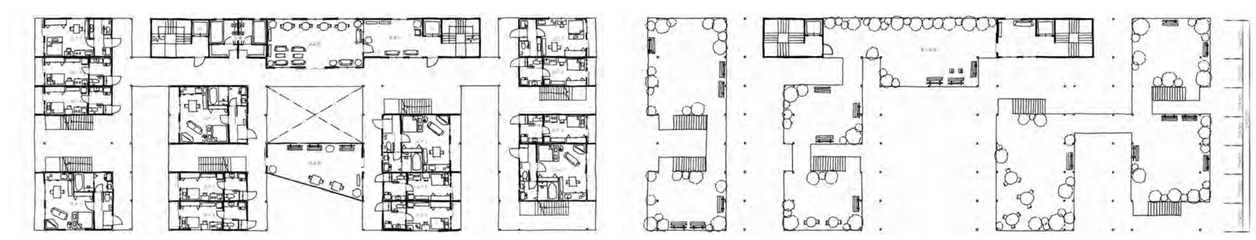
配置計画において、 外部空間をどのようにして建築に取り入れるかを考える。 敷地の短辺に対して平行
を配置し、ボリュームの間に外部空間を挟む。 廊下やコモンスペースは外部空間に配置し、外に開いたイメ



Plan scale 1/400

全体として、 敷地の東側に長辺に対して平行に
動線があり、 西側に枝分かれするように延びるよ
線となっている。 一階の用途は、 基本的に外部に
ている。 住民と外部の人たちとの交流を意識。 ス
ツ室や図書館等様々な世代の人が利用できるよう
のを選定。 多目的室はイベント等様々なシチュエー
ンに対応できる。 中央広場は外部と内部をつなげ
要な役割を果たしている。 上部吹き抜けとなって
ガラス屋根から光が差し込む明るい空間となって
徘徊老人や防犯、 プライバシー保護の対策として
的に東側の出入り口は住民以外は利用できず、 夜
は東側以外の出入り口は閉鎖する。 二階から上階
民同士の交流を意識。 東側中央の空間はフロア全
の住民が集まる空間。 二階ではシェアリビングと
キッチンを配置。 三階では娯楽室を配置。 住民同
で共同作業をする。大人数で集まって話したり遊ん
ご飯を食べたりする、 大きなコミュニケーション
枝分かれした動線に沿って住戸を配置。 ランダム
覚で住戸ではなく植栽や椅子、テーブルを配置して
て休んだり話したりできる空間を配置。 近くの住
で集まる小さなコミュニケーションの空間。 中央
上部にはデッキを二階三階でずらして配置。 屋上
全体として屋上庭園とした。 三階のボリュームの
庭園にし、 デッキでランダムにつなげた。 三階の
がランダムなため、 屋上もランダムになる。 屋
も相まって、 様々な種類の顔を持つ空間となって

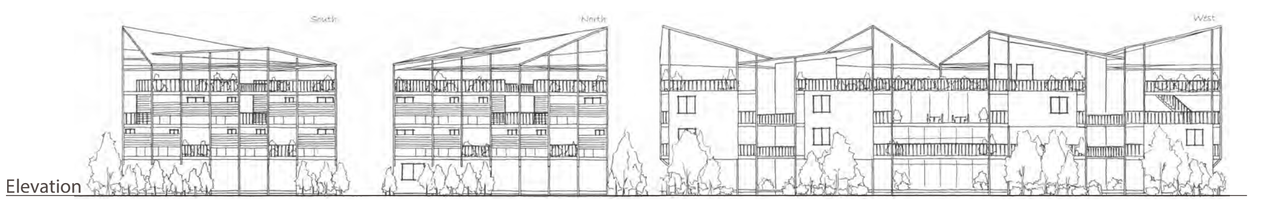
1 Floor　　2 Floor



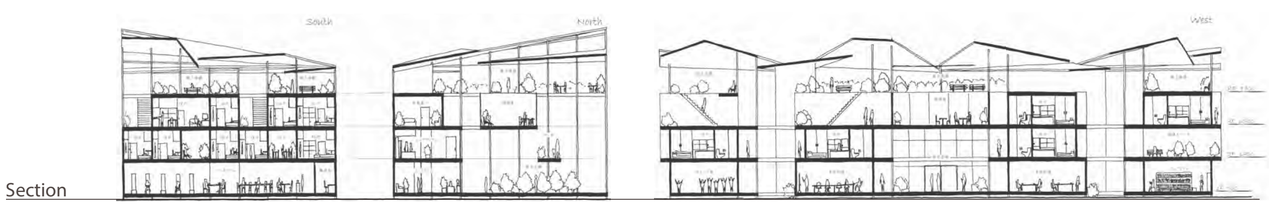
3 Floor　　Rooftop Floo

Section,Elevation scale 1/400

南面北面は住戸がブロック状に配置されているの
える。 住戸のベランダ部分に上部に開いた４５度
度でルーバーを配置。 目線を遮ると同時に光を取
む。 プライバシーを保護する役割がメインとなるた
サードデザインとしてもアクセントとなっている。
周囲のボリュームに合わせて南北方向に傾け、 全
なまちの流れを意識した。 シンメトリーな建物に
ランダムに曲げることでファサードを美しく見せる
部の高さを変え、 隙間をつくることで内部に光が
断面は中央吹き抜けを主にデッキを利用し、 目線
れを意識。 共有空間では階をまたいだ人の交流を
線で感じることができる。 廊下やコモンスペース
にあるため、 歩いている中でも人の存在を感じる
できる。



Elevation



Section